

 映画美学校
アクトーズ・コース

**映画・演劇を横断し活躍する
俳優養成講座2025**

～演技を通じた新しいクリエイター創出を目的とする～

募集要綱

2025



助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（芸術家等人材育成））

独立行政法人日本芸術文化振興会

主催：特定非営利活動法人映画美学校

映画美学校アクターズ・コースの開講にあたって

映画美学校は、1997 年の「映画技術美学講座」（映画美学校の前身）以来、実践的な映画教育を行うとともに、ふたつの交流を大切にまいりました。そのひとつは国際交流であり、もうひとつは他ジャンルの表現領域との交流です。この度、映画とかかわりの深い芸術ジャンルである演劇との交流を、人材育成を通じてはかるべく映画美学校アクターズ・コースを開講いたします。

シネマ・ダールや 1920 年代のロシア映画、アクターズ・スタジオを例に挙げるまでもなく、映画と演劇は歴史的にみても不可分の関係を築いてまいりました。21 世紀に入り早くも 10 年が経過した現在、メディアの多様化は一層加速しつつあります。その中で「映画演技とは何か」「演劇演技とは何か」「テレビ演技とは何か」が、演出する側にも、演ずる側にも一層問われているのではないのでしょうか。

映画美学校アクターズ・コースの構想が生まれたのは、映画美学校が国際交流企画として 2008 年 9 月に実施したフランスの映画作家ジャック・ドワイヨン監督による特別講義です。その講義の中でドワイヨン監督は映画学校における俳優コースの必要性について一言触れられました。自らの映画に素人俳優を起用しながら、俳優コースの必要性を説かれたドワイヨン監督の問題提起を私たちなりに受け止めた結果が、今回の開講にいたりました。映画美学校のアクターズ・コースは、インディペンデントな俳優の養成を目指します。ここで言うインディペンデントとは、多様なメディアと様々な演出意図に柔軟に対応できる身体能力と技術を意味しています。そして、多彩な講師陣による実習を中心としたカリキュラムは、ひとりひとりの受講生がその能力を身につけ俳優として第一歩を踏み出す貴重な機会になるものと確信いたします。

映画美学校アクターズ・コースの開講が、フィクション・コースやドキュメンタリー・コースと同様、日本の映画シーンを一層豊かなものにするための一助となれればと願う次第です。多くの方々の受講をお待ちしています。

（2010 年 12 月 15 日）

映画美学校

アクターズ・コース講師メッセージ

映画美学校アクターズ・コースは今年で開講から 15 年目を迎えます。

私たちは俳優が俳優に技術と知識、その経験を伝えること、そして俳優自身も創作に関わり主体性を養うことを掲げ、これまで多くの若い俳優たちとともに学んできました。結果、受講生たちの可能性は私たち講師陣の思惑をはるかに越えて、彼ら彼女らは自立し活躍の場を広げていきました。しかし、学校に通い修了すれば俳優として悩みがなくなるなんてことはありません。例えプロとして活躍する俳優や映画監督もいつだって悩みに悩みながら創作に向き合っています。それは、演じるということ、創るということは、生活の糧を稼ぐための仕事であるだけでなく、世界を知るための手段であるからです。世界が複雑である限り、演じるという表現も無限に複雑であり続けます。ぜひ、アクターズ・コースで私たちと一緒に演じることの不思議を探究していきましょう。

アクターズ・コース講師一同

俳優養成講座 2025 カリキュラム、講師プロフィール

※通常講義は原則として月・水・金の 13:30～17:00 を予定しています。但し、イレギュラーな講義、実習の撮影、2 月～3 月上旬の修了上演展の稽古はこの限りではありません。詳細はカリキュラム日程表をご覧ください

□演技レッスン

担当：近藤強（俳優／青年団）

「動くんじゃなくて、周りに動かされる」

シアターゲームなどを交えながら、ビューポイント（Viewpoints）という演技トレーニング方法を紹介します。ビューポイントでは、演技を時間的要素（長さ、テンポ、反応、繰り返し）と空間的要素（関係性、身体、ジェスチャー、建築など）に分けて考えます。全 8 回の講義を通してこれらの要素1つ1つについてじっくりと学びます。演技をする時に相手役、台詞、環境（相手との距離や空間）などに刺激されて動ける身体作りを目指します。

1971 年生まれ。愛知県出身。三重大学人文学部卒業後に渡米、ネイバーフッドプレイハウス修了。2007 年に帰国し、青年団に入団。青年団以外には渡辺源四郎商店、ウングツィーフア、玉田企画、犬飼勝哉などにも出演。映画：『あの日々』(18 / 玉田真也)、『ジェファソンの東』(18 / 深田晃司)、『ミッドナイトスワン』(20 / 内田英治)など。俳優活動以外には、舞台通訳、企業研修ファシリテーターとしても活動。

担当：兵藤公美（俳優／青年団）

「はじめての劇」

日本語のテキストを使用して、人間の生理や批評的観点で演技を構築していく技術をトレーニングをしていきます。台本の読み取り、セリフの取り扱い、身体のコントロール、空間の使い方のスキルアップを目指します。

神奈川県出身。桐朋学園大学演劇専攻科卒業。1996 年青年団入団。主な出演作に「日本文学盛衰史」『思い出せない夢のいくつか』青年団 × パスカール・ランベール『KOTATSU』。客演では、Q『パッコスの信女 - ホルスタインの雌』(20 / 作・演出 市原佐都子)情熱のフラミンゴ『ドキドキしていた』(22 / 作・演出 島村和秀)などに参加。映画出演作に『歓待』(10 / 深田晃司)『哀愁しんでれら』(21 / 渡部亮平)『子供はわかってあげない』(21 / 沖田修一)『MADE IN YAMATO/ まき絵の冒険』(22 / 竹内里紗)『すべての夜を思い出す』(22 / 清原性)など。

担当：竹中香子（一般社団法人ハイドロブラスト プロデューサー・俳優・演劇教育）

「ちょっとだけ”めんどくさい”俳優になる」

俳優が他人を演じるということの「できなさ」を知覚するところからスタートし、クリエイションに挑む「態度」を模索していくことが目的です。さまざまなスタイルや価値基準が交錯する現代演劇において「いい俳優」を一概に定めることは不可能に近いと思いますが、創作プロセスの中には、「いい俳優」は存在すると考えています。創作プロセスにおいて、ひとりで苦しみを抱えて我慢するのではなく、他者と協働し、状況を突破していくこと。そして、その解決策は、大概の場合、コミュニケーションにある。私自身が、フランスの国立高等演劇学校と演劇教育国家資格取得の過程で学んできたことを発展させ、創作の現場における「いい俳優」、わたし流にいうと、ちょっとだけ”めんどくさい”俳優になるための講義です。

2011 年に渡仏。日本人としてはじめてフランスの国立高等演劇学校の俳優セクションに合格し、2016 年、フランス俳優国家資格を取得。パリを拠点に、フランス国公立劇場を中心に多数の舞台に出演。俳優活動のほか、創作現場におけるハラスメント問題に関するレクチャーや WS を行う。2021 年、フランス演劇教育者国家資格を取得。2021 年以降、太田信吾監督作品すべての映画プロデュースを行う。2024 年初戯曲を執筆し、『ケアと演技』を上演。「演技を、自己表現のためでなく、他者を想像するためのツールとして扱うこと」をモットーに、アートプロジェクトを企画している。

□俳優の権利と危機管理

担当：アクターズ・コース講師陣

今、俳優の仕事は多岐に渡っています。映画、ドラマ、広告、演劇、ナレーション……。事務所に所属している俳優も、フリーで活動している俳優も、最終的には自分の身体と心をさらけだして、ある作品世界の創造に寄与していきます。だからこそ、その仕事の過程、表現の領域で起きる種々のトラブルは、俳優にとってダイレクトに心身を傷つけかねないリスクを負っています。自立した俳優としてその仕事を長く楽しく継続していくために必要な知見をシェアしていきます。

<ゲスト講師>

森崎めぐみ

俳優。一般社団法人日本芸能従事者協会代表理事。東京労働局承認・全国芸能従事者労災保険センター理事長。文化庁文化芸術分野の適正な契約関係構築に向けた検討会議委員。共立女子大学非常勤講師。映画「人間交差点」で主演デビュー後、黒沢清、是枝裕和などの監督作品やディズニー映画「ファインディング・ニモ」日本語吹き替え版に出演。TV「暴れん坊将軍」「相棒」など多数出演し、舞台「自殺仕事人」にヒロイン役主演。代表作に国際うばり映画祭ファンタランド大賞受賞作、ドービルアジア国際映画祭・ドイツマンハイム国際映画祭など正式出品「CHARON」カロン役主演。著書に岩波新書『芸能界を変える たった一人から始まった働き方改革』ほか。2022 年公益財団法人パブリックリソース財団「女性リーダー」受賞。

□断片映画制作

講師：宮崎大祐(映画監督)

与えられたテーマに基づき各自が2本の断片映画 = 「『短編映画』未満の映画」を制作します。初回にガイダンスを行い、映画制作の基礎を学んだのち、受講生それぞれに断片映画を制作してもらい、完成作品をみなで見て批評します。自分で自分を演出し、演技し、撮影し、編集するという4段階をふむことで自分の演技がカメラにどう定着して作品として観客に伝わるのかを学びます。

早稲田大学卒業後、映画美学校を経て、フリーの助監督、脚本家として活動しはじめる。2011年に初の長編映画『夜が終わる場所』を監督し、その後『大和(カリフォルニア)』(16)、『TOURISM』(18)、『VIDEOPHOBIA』(19)、『PLASTIC』、『# ミトヤマネ』(23)などを発表。最新作は今春公開された『V. MARIA』(25)。

□短編映画制作ワークショップ

講師：松本大志(映画監督)、他

映画監督をまねき、一般的な映画制作のプロセスにのっとり短編映画を制作します。受講生は出演者とスタッフを兼ねることで、演技ができて制作もできる俳優への第一歩を踏み出すことをめざします。

成城大学卒業後、映画美学校フィクション・コース修了。2013年、短編『NEVER TO PART』が第1回 LOAD SHOW コンペティションに入選。14年、第11回 CO2(シネアスト・オーガニゼーション大阪)の助成監督に選ばれ長編『誰もわかってくれない』を監督、第10回大阪アジア映画祭にて上映。19年、短編『8150』が福井映画祭 13TH 短編部門に入選。

□フィクション・コースを知る

担当：近藤強

フィクション・コース生の作品を上映し、監督や出演者を招いて作品について話し合うという講義です。映画制作者と俳優はオファーする／されるという関係から始まることも多いですが、両コースが併設されている映画美学校の特色を生かして、まずは作品を観て話す場を作ることでお互いの存在を知り合うところからはじめてみるということをしてみたいと思っています。作品作りをする人たちとコースを越えて出会うことで、お互いに刺激を得ながら学びを深めていく仲間と出会うきっかけになることを目指します。

□演技の視点

講師：島村和秀（劇作家・演出・Oxymoron Theatre Club 主宰）

「演技の視点」では演技における【プラン】と【アクション】のベースとなるアイデアをシェアします。【プラン】においては個々人の主体的なテキストへの批評（読解）と、それを元にした演技プランを作っていただきます。【アクション】においては演技空間（現場）で状況を立ち上げるための視点とそのトレーニングを行います。最終的には「ハムレット」を用いてそれぞれ 1 シーンずつ発表する予定です。なお、発表は“シェイクスピアっぽい表現”が要求される場ではなく、むしろそうした先入観や権威性から離れ、「演技を自分のものにできたか」を確かめる為の発表となります。

1988 年さいたま市出身。演劇ユニット Oxymoron Theatre Club 主宰。【舞台芸術】は人文的なスポーツであるというコンセプトのもと、舞台創作を通して矛盾で軋む現実を逆さにして、もう一度逆さにする。映画美学校アクターズ・コース 20 年度修了公演「かもめ」を演出、22 年度修了上演展「靴履く俳優」でプロデュースを担当。

□戯曲を書いてみる。

担当：本橋龍（劇作家・演出家／ウンゲツィーファ主宰）

其々に短編の戯曲を執筆して頂きます。

作家の視点と俳優の視点は根本的な違いがあると感じています。Google マップでいうところの、通常のマップの状態が作家の視点。主観視点のようなストリートビューが俳優の視点に近いのではないのでしょうか。

作家の視点に立ってみることで、俳優をやる上でも新たな視点を獲得できるのではと思っています。

最終的に、執筆戯曲の発表を読み合わせの形式で行います。

1990 年生まれ。さいたま市出身。演劇ユニット「ウンゲツィーファ」主宰。リアルな日常描写と潜在意識にある幻象を、ひとつの舞台空間で重ね合わせ、複数のシーンやキャラクターが交錯することで、新たな景色や感情を生み出していく「攪拌（かくはん）される会話劇」として独自の作風を確立。代表作『動く物』が平成 29 年度北海道戯曲賞大賞を受賞し、以降も 2 年連続で優秀賞を受賞。映画美学校アクターズ・コース 19 年度公演「シティキラー」、22 年度公演「ビーコンライツ」にて脚本演出を担当。

□アクターズ・ラボ

毎回多彩なゲスト講師を招いてその生き方や知見を解きほぐしながら共有していきます。様々なジャンルや立場の違う講師を招くことで、演じることだけではない、俳優としての世界の見え方を広げていきます。

□修了上演展

担当：近藤強、兵藤公美、島村和秀、三浦雨林（劇作家・演出家／隣屋 主宰）

半年間研鑽を積んだ集大成として、またアクターズ・コースの理念の一つである「自分で作れる俳優の育成」を掘り下げるため、演技表現のショーケースを開催。三浦雨林が俳優のクリエーションをサポートし、近藤強と兵藤公美が演技のサポートと場をプロデュース。作品発表ではなく、俳優が演じることを主体的に考え実践する、「演技の創造性」に焦点を当てた上演を行います。

三浦雨林

演出家、劇作家。日本大学大学院芸術学研究科舞台芸術専攻修了。隣屋主宰、青年団所属。芥川龍之介やレフ・トルストイなど既存の作品を原案に、文学作品として書かれた言葉と人によって発話された言葉の差異を際立たせる手法で劇作・演出を行う。誰かの隣に寄り添える作品づくりを目指している。20 年以降、映像・美術を中心とするインスタレーションの手法も用いた演劇作品を発表している。

映画・演劇を横断し活躍する俳優養成講座 2025 募集要項

- 受講期間:2025 年 9 月 1 日(月)～2026 年 3 月まで
- 受講資格:18 才以上でありプロの俳優を目指す人であれば学歴、経験の有無は問いません。
- 募集人員:10 名程度
- 講義日程:通常講義は原則として月・水・金の 13:30～17:00。但し、イレギュラーな講義、実習の撮影、2 月～3 月上旬の修了上演展の稽古はこの限りではありません。詳細はカリキュラム日程表をご覧ください。
※講師の都合により講義日程や講師に変更の可能性があります。ご了承の上お申込み下さい。
- 受講料:185,000 円(税込／保険料込)※一括納入が原則ですが、ご希望の方には分割払いでのお支払いもご案内をいたします。

※年間受講料の分割払いでのお支払いにつきまして
総額 185,000 円(税込／保険料込)
92,500 円を前払いしていただき、残額 92,500 円が分割払いになります。

お支払回数	金 利	合計金額	前払金	残 額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
4	4.20%	185,000	92,500	92,500	3,884	96,384	24,096

(単位:円／税込)

- 教室:映画美学校(渋谷区円山町／基本対面講義で行います。状況に応じて対面講義をオンラインに変更する場合がございます)。
- 申込締切:2025 年 8 月 2 日(土) 20:00 まで
- 申込方法:オンラインによる申込。映画美学校ホームページよりお申し込みください。
- 選考方法:書類選考および講師陣との面接・簡単な実技を行います。申込締切後、面接・実技日程をメールにて事務局から連絡をさせて頂き
ます(面接と実技は 8 月上旬に行います。詳細に関しては別紙を参照ください)。面接・実技終了から速やかに可否の結果を郵送でお知らせし
ます。合格者には、受講手続きのご案内を致します。
- 受講手続:合格通知を受領後、受講料 185,000 円(税込／保険料込)を指定の期日までに、指定の銀行口座にお振込下さい。受講料の入
金を確認された時点で申込み受付完了となります。
※講義開始に関わらず、申込者の自己都合での解約による受講料の返金は原則お断りいたします。ただし、疾病等、本校がやむを得ないと認める事由につい
てはご相談に応じます(詳しくは映画美学校約款をご参照ください)。

<申し込みフォーム>



<https://business.form-mailer.jp/lp/c6004974292792>

- お申込み・お問い合わせ
特定非営利活動法人 映画美学校
〒150-0044 東京都渋谷区円山町 1-5 KINOHAUS B1F
電話: 03-5459-1850 FAX: 03-3464-5507
受付時間(月～土)12:00～20:00
HP: <http://eigabigakkou.com>

映画美学校約款

Ⅰ 受講上のご注意

- ◎講義の写真撮影、録画、録音はご遠慮ください。
- ◎持病のある方、あるいは体調不良になられた方は事務局にご相談下さい。
- ◎講義の際に使われる各種の機材・備品などの取り扱いは十分に注意して下さい。機材や備品を大切にすることは映画づくりの基本です。
- ◎館内での私物の管理は、各自で責任を持って行って下さい。賠償の責は負いかねます。また、受講生本人の不注意による事故や物的損害に対しても同様です。
- ◎当校は現役の映画人に講師をお願いしておりますので、講師のご都合またはやむを得ぬ事由により、講師やカリキュラムを変更することがあります。また、交通機関の混乱や、天災地変などやむを得ない事情で、カリキュラムを変更する事があります。
- ◎各コースのカリキュラムは、講師陣により日々検討を重ねております。そのため、要項に記載のカリキュラムが若干変更・修正される可能性もございます。変更・修正の際は理由を説明いたします。
- ◎急なカリキュラムの変更等、当校より緊急連絡をさせていただくことがございます。ご登録の氏名・住所・連絡先等に変更があった場合は、すみやかに事務局にお知らせ下さい。
- ◎受講希望者が一定の人数に達しないクラスは、開講を見合わせる場合もあります。

Ⅱ 受講取消の扱い

- ◎いったん納入した受講料は、原則としてご返金できません。各講座の予算は講師陣と事務局が協議して慎重に確定いたしますので、その後のキャンセルはカリキュラムの実現に重大な支障を来します。ただ、病気や転勤など、当校がやむを得ないと認めた場合は、開講日以前であれば下記の計算方法でご返金いたします。その場合、医師による診断書や勤務先の辞令（コピー可）など、受講不可能となった事由を証明する書類をご提出下さい。

Ⅲ 受講開始日より起算した返金額

30日前まで：全額の90%

29日前～14日前まで：全額の75%

13日前～7日前まで：全額の50%

6日前～1日前：全額の25%

なお、講義開始後のお申し出は、お受けできません。

Ⅳ 安全面について

- ◎映画の撮影時には、スタッフ、キャストともに目の前のことに集中するので、事故が起こりやすいものです。事務局から配布される注意事項をよく読んで厳守し、撮影にかかわる人たち全員が安全面に配慮することで、絶対に事故を防ぐようにして下さい。将来、講座修了後も、映画を制作し続ける限り、一番大切なことです。なお、注意事項に書かれていないことは、遠慮なく事務局にご相談下さい。
- ◎非常口、避難通路などは事前にご確認下さい。災害が発生した場合は、必ず係員の指示に従って行動して下さい。

Ⅴ 著作権について

- ◎本校のカリキュラムの一環として制作された画像、動画、サウンド等の著作権は基本的に映画美学校に帰属します。従って、それらの全部又は一部および、授業風景等を録画・録音したものの全部又は一部を、本校の広報・業績・紹介目的のため、任意かつ無償で利用することがあります。その際、著作者の氏名の表示を省略することもあります。諸般の事情により支障のある方は、開講してなるべく早い時期に事務局にご相談下さい。なお、利用にあたっては、第三者の著作権、商標、名誉、信用、肖像権その他の権利を侵害しないように細心の注意を払います。

■お申込み・お問合せ

特定非営利活動法人 **映画美学校**

〒150-0044

東京都渋谷区円山町 1-5 KINOHAUS B1F
(渋谷・文化村前〈松濤郵便局前〉交差点左折)

TEL 03-5459-1850 FAX 03-3464-5507

<http://www.eigabigakkou.com>

受付時間(月～土) 12:00～20:00

